

刈谷市議会議員 伊藤よしえ による刈谷の未来づくり提案誌

ORANGE PRESS

オレンジプレス Vol.5
2024年9月議会号

暑い熱い、
夏のヒトコマ

常任委員会報告
笑顔になるまち

令和6年9月議会 一般質問

にぎわい施策の在り方を問うてみた
放課後児童クラブのお弁当 利用者の反応はいかに

にぎわい施策の在り方を 問うてみた

“にぎわい”の行きつく先とは

刈谷市は今、「にぎわいの創出」をひとつの目玉施策に掲げています。謎解きのような楽しいイベントや、オトクに買い物ができるクーポン事業などで、市内外の人の流れやつながりが生まれ、まちが活気づくことはもちろん喜ばしいことです。しかし、そこに私たちの大切な税金が使われている以上は、「満足度が高かった」「まちが（一時的に）盛り上がった」「また行きたいと言っている人がたくさんいるから来年もやろう」だけではいけないと思うのです。様々な施策を打つことによって、各施策単体での狙いを越えた波及効果や、社会的変化が起こったか否かが重要です。例えば、刈谷市は大企業が多いため、平日は刈谷市内に滞在する人がとても多いですね。ここに、前出の謎解きイベントやその他施策の実施を重ねた結果として、休日の滞在人口が増加すれば、社会的変化が起こったと言えます。近隣店舗への経済的効果があったかなども同様ですが、**にぎわい創出の施策を通じて、人々の行動変容を起こせたか、社会が変わったのかを見ていくべきである。これが、今回の一般質問で私が訴えたかったことのひとつです。**

戦略について思うこと

市は「にぎわい」について、「人や物や情報が集まり交流することで地域が活性化し、経済が潤い、新たなアイデアが生まれる。そして、さらなるにぎわいが創出されるような好循環が生まれること」と答えています。また、課題を問うたところ、「行政主導ではなく、まちづくり団体をはじめ地区や企業などが、主体的に、また連携し、市内各所でにぎわいにつながる取り組みが生まれるような姿を目指していくこと」との答弁がありました。私からは、まちづくり団体や地区・企業による自走が目指す姿であるならば、「刈谷と言えばコレだよな」と思っていただけのような**明確なビジョンや、各所の連携を促すコーディネーター的役割を、実効性のある形で発揮できる人材を登用・育成する必要性を訴えるとともに、ソーシャルインパクトボンド（以下、SIB）という手法の導入を検討いただくよう、提案しました。**

SIBについて少しだけ説明を。SIBは、自治体や民間事業者、資金提供者などが連携して社会課題の解決を目指す行政手法で、従来の民間業務委託は委託費用が固定であることが多いとされますが、**SIBは事業の成果（最初に述べた行動変容や社会の変化までを含む）を評価して可視化し、成果に応じて行政から資金提供者に報酬が支払われます。**事業者には成果創出のインセンティブが働きやすく、効果を最大化でき、自治体にとってもコスト削減メリットがあるため、にぎわい創出などのまちづくりにも親和性が高いと考えます。

シティーセールスとの連動

「にぎわい」と密接な関係にあるのが、シティーセールスです。その名の通り、「まちの宣伝」というイメージが強いと思いますが、市民の皆様が「まちに対する愛着や誇りの醸成」という側面も持っています。**若い世代の方々に刈谷に住みたい・住み続けたいと思ってもらえるようにすることは、私の重点政策の一つ。**市としても、先ほどまで述べてきたにぎわい施策に加え、定住促進冊子「My Karīya」に子育て・教育の情報を掲載したり、子育て応援ナビというサイトで情報発信などを行っています。もっと広く皆様に知ってもらえる取り組みにしないと・・・と感じます。**今後も市に対し、インパクトのある発信、取り組みを強力に牽引できる組織の整備や、人材登用・育成などについて働きかけていきます。**



出典：日本財団 社会的投資推進室
『新たな官民連携の仕組み ソーシャルインパクトボンドについて』

放課後児童クラブのお弁当 利用者の反応はいかに

夏休みの悩みのタネを解消したい

放課後児童クラブにおけるサービスの充実とは、「働くまち刈谷」において「仕事も子育ても頑張りたい」と奮闘する保護者の皆さんへのサポートとなる、大切な政策と捉えています。中でも、長期連休中のお弁当配達サービスは以前より導入を要望してきた施策の一つです。1ヵ月以上もの間、毎朝早く起きてお弁当を作り、会社へ行く。わが子のためとは言え、大変な毎日でしょう。6月議会の一般質問でも取り上げさせていただきました。オレンジプレスでも報告しましたが、この夏休みは、市内の15クラブ全てで、お弁当配達の実証実験が行われました。さて、子どもたちや保護者の皆さんの反応はどうだったのでしょうか。一般質問で問いました。

本導入に向け、パワーアップを求む

実施事業者は、プロポーザル方式（プロジェクトに適した提案者を選定する方法）を取ることに、この夏休みは2社に絞って実証実験が行われました。一般質問の時点では、前半部分を担当した1社の利用率の集計が終わったところでしたが、利用率は7%でした。昨年、小高原クラブと日高クラブで実施した際の利用率が36%でしたので、低調傾向が見られますが、どういった要因からでしょうか。こういう時は、利用しなかった人の意見こそ聞かねば！ということで、友人の力を借りてママ友さんたちとその子どもの意見を聞いたところ、注文締め切りやキャンセルの運用が柔軟でなかったり、低学年の子どもにも幕の内弁当のようなメニューは好まれないことなど、運用面や内容面での課題が分かりました。一般質問の中でもこれらの声を伝えたと、市としても、利用者の声や要望を事業者に伝え、より喜ばれるサービスを検討していくとの答弁をいただきました。

改善ポイントは色々ありますが、今後もサービスが継続されることを望む声は非常に多く上がっています。お弁当配達サービスがパワーアップして本導入され、より多くの家庭の子育てサポートとなるよう、引き続き取り組んで参ります。

常任委員会報告

新しく福祉産業委員会の委員となりました。令和6年9月の委員会では、8月にプレスリリースのあった「刈谷イノベーション推進プラットフォーム」の目指す姿や取り組み内容について質疑を行いました。刈谷市、刈谷商工会議所、碧海信用金庫を構成団体として立ち上げたもので、各機関が有するネットワークを活用した新たな交流やつながりを作る機会となる共同イベントの開催などを担います。今後は、愛知県のステーションAiのパートナー拠点としての認定を受けることもねらっていくとのこと。刈谷市の産業がもっともっと盛り上がりますように！

委員会での発言や当局の回答は、刈谷市のHPから閲覧できます。また、本会議での一般質問は、映像で公開されています。ご興味を持っていただいた方は、是非のぞいてみてください。

笑顔になるまち アイデア募集してみたら・・・

デンソーファミリーデーの労働組合ブースにて、来場してくれた子どもたちを中心に「笑顔になるまち」のアイデアを書いてもらいました。「みんながすぐになかよくなれるまち」「動物がいっぱいいるまち」など、ほっこりするアイデアから、「おんなのこどうしけっこんでできるようにする」「二酸化炭素を排出しないおだやかなまち」など、世の中を捉えたおとな顔負けのものまで。しかと受け取りました！



2024年
オレンジの女

暑い熱い、夏のヒトコマ

今年も暑かったですね。
紫外線アレルギーに負けることなく
過ごした熱い夏のヒトコマを。



上／安城総合運動場にて安城スガ
ぐるフェスのお手伝い。たくさ
んの組合員さんが参加してくれま
した。ブライトペガサスの応援も！
右／トヨタ紡織歴史未来館に行
てきました。刈谷の産業発展の歴
史を学ぶことができます。演出も
カッコイイ。



左上／万燈蔵にて、万燈制作のお手伝
い。和紙に桜の花を書いています。地
域ボランティアの皆さんのおかげで、
今年も素敵な万燈ができました。
左下／デンソー桜区から万燈祭に参加
しました。デンソー学園生も元気いっ
ぱいに盛り上げてくれています。
上／令和7年度予算について、市民ク
ラブで要望書を作成し、稲垣市長に提
出しました。もちろん予算化を目指し
てフォローしていきます。

【おしらせ】
ORANGE PRESS は、年間4回発行します。
日々の活動はSNSでも発信しています。
是非フォローをお願いします！DMにてご相談も賜ります。

Facebook



X

